

臨床からの学問のすゝめ

科目責任者 金 彪
 学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

医学部に入った初学年の学生に、前途に広がる世界へのオリエンテーションの機会とすることを目標とする講義シリーズである。

進歩する臨床医学各分野において、将来に期待される展開を提示する。各分野を代表する臨床家による、職業人としての心構えや、倫理感、信念、あるいは体験談、失敗談など、人間味ある臨床医学の実践者たることに資するメッセージを届けることを目指す。

II. 一般学習目標

臨床医学各分野の将来の方向性に触れる。

III. 学修の到達目標

医師としての規範、職業人としての目標を自ら身につけていくための感性を磨く。

IV. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	13	月	3	医師のキャリアパスと学問のすゝめ（全体オリエンテーション）	脳神経外科学 金 彪
2		20	月	3	生命誕生から終末期医療まで	産科婦人科学 深澤 一雄
3		27	月	3	免疫の力：光と影	内科学（リウマチ・膠原病） 倉沢 和宏
4	5	1	金	1	麻酔は単に眠らせるだけではない！	麻酔科学 濱口 真輔
5		8	金	1	病院から現場へ ～ドクターヘリとDMAT～	救急医学 小野 一之
6		15	金	1	増加しているアレルギー疾患に対する治療の最前線	小児科学 小吉 原重美
7		22	金	1	形をつくる外科学	形成外科学 朝戸 裕貴
8		29	金	1	画像による体内構造の理解	放射線医学 楳 靖
9	6	5	金	1	超高齢社会に求められるこれからの医療	内科学（心臓・血管） 鄭 忠和
10		17	水	6	ズバリ！神経疾患・集中治療のすべて	内科学（神経） 星 山 栄成
11		19	金	1	白血病の最前線	内科学（血液・腫瘍） 三谷 絹子
12		24	水	2	眼科領域におけるレーザー応用	眼科学 妹尾 正
13		26	金	1	脳と脊髄を守ろう - 脳神経外科の最前線	脳神経外科学 金 彪

V. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各講義から、どれだけメッセージを聞き取れたか、記述文によって評価する。

VI. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

VII. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義終了後に各講義担当者に興味がある事項や不明な点等を講義担当者に質問する。

VIII. 求められる事前学習，事後学習

事前：講義内容に関する事項について各自調べておくこと。 事後：講義内容について（講義資料などを見返し）復習すること。

IX. コアカリ記号・番号

A-1-3) 医師としての責務と裁量権 A-2-2) 学修の在り方 A-9-1) 医師研究への涵養 A-9-1) 生涯学習への準備 B-4-1) 医師に求められる社会性。